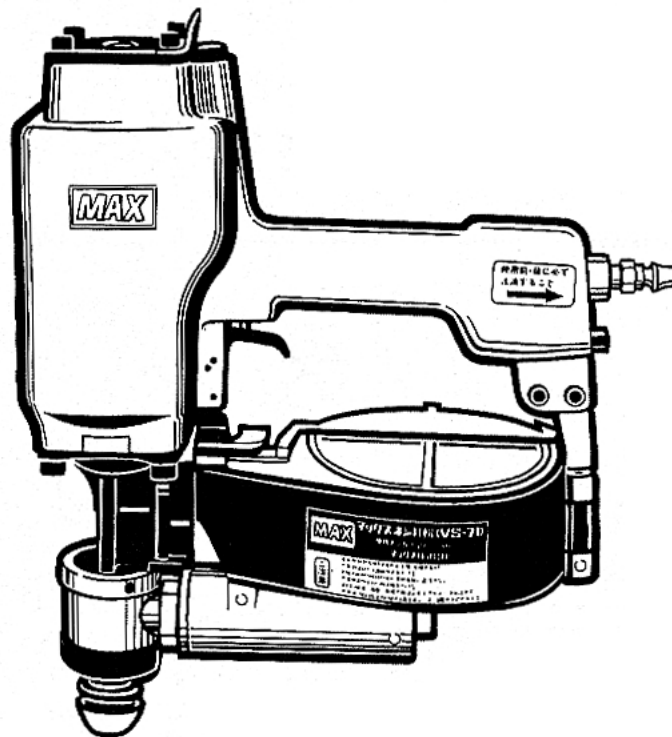


# マックスネジ打機 VS-71 VS-71吊子用

## 取扱説明書



### ⚠ 警告

- 使用前に必ず取扱説明書を読む。
  - 使用の際は、作業者およびまわりの人も必ず保護メガネを着用する。
  - 安全装置が完全に作動するか使用前に必ず点検する。正常に作動しない場合は使用しない。
  - 打つ時以外は絶対にトリガに指をかけない。
  - 射出口を絶対に人体に向けない。
  - 移動する時、使用しない時、調整・修理・ネジ装填の時は必ずエアホースをはずす。
  - エアコンプレッサ以外の動力源は絶対に使用しない。
  - 揮発性可燃物のそばで絶対に使用しない。
  - 異常を感じたら絶対に使用しない。
- この取扱説明書は常時内容が確認できるよう保管してください。
- 本機の仕様は機能向上のため、予告なしに変更することがあります。

**MAX**®

このたびは、マックスネジ打機VS-71・VS-71吊子用をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。本機の取扱いにあたって、この取扱説明書を最後までよくお読みください。使用上の注意事項、使用方法、能力などについて十分ご理解の上、安全に適切にご使用くださるようお願いいたします。

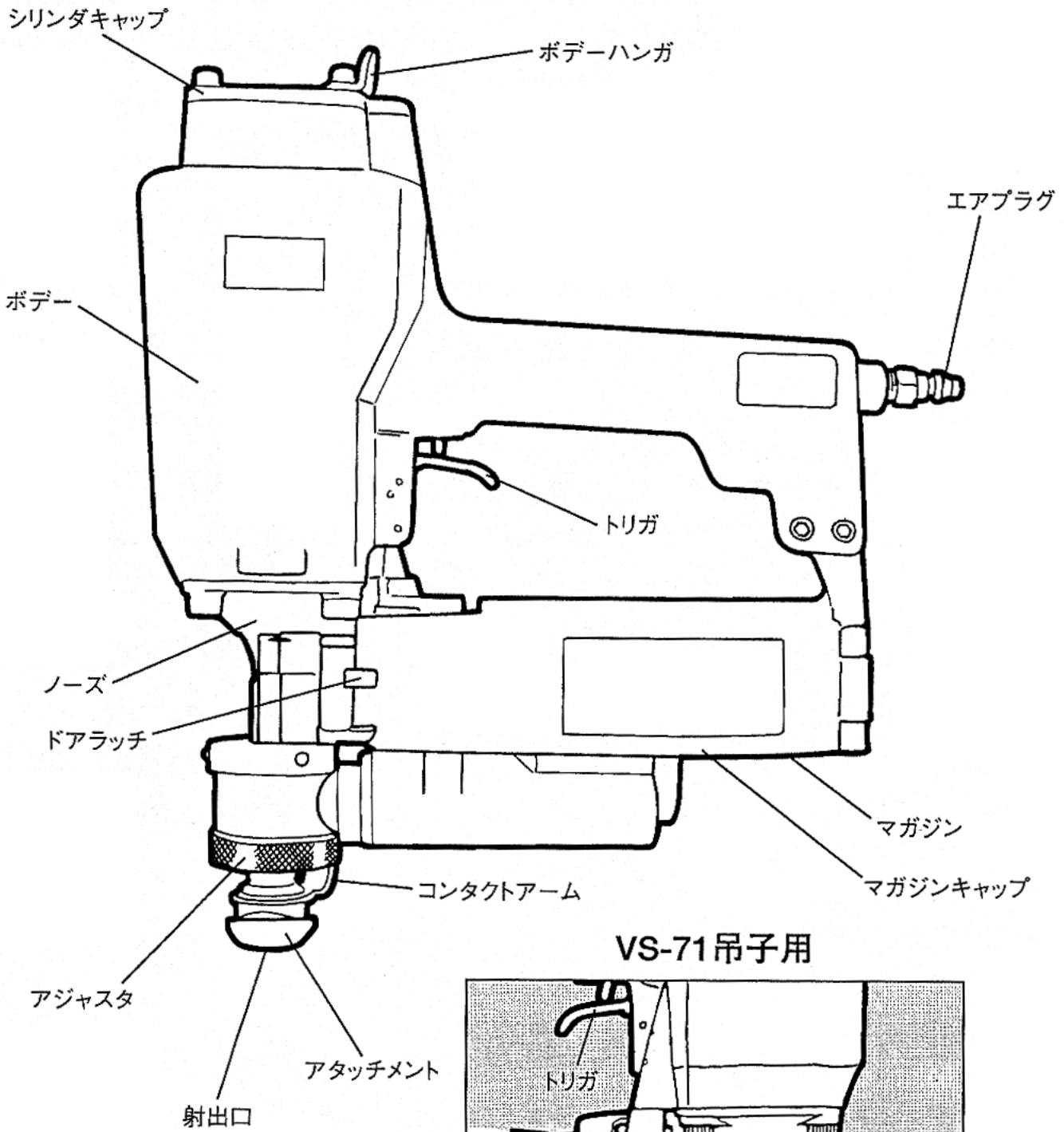
**⚠ 警告：** この表示は、取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合を表しています。

**⚠ 注意：** この表示は取扱いを誤った場合に、使用者が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される場合を表しています。  
また、取扱いを誤った場合には、ネジ打機本来の性能を発揮しないばかりでなく本機の損傷につながる事が想定される場合を表しています。

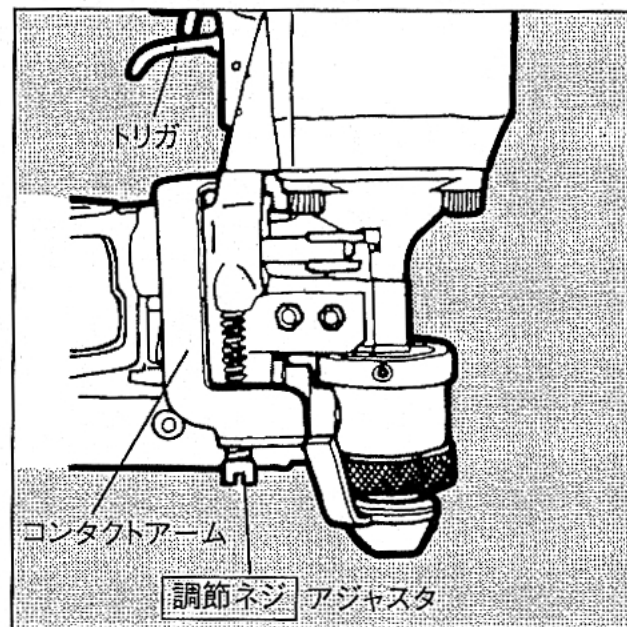
## 目 次

1. 各部の名称 .....	1
2. 安全作業のために .....	2
3. 安全装置について .....	10
4. 仕様及び付属品 .....	11
5. 使用方法 .....	13
6. 用途とネジ選定基準 .....	16
7. 配管についての注意 .....	17
8. エアホースの接続 .....	18
9. アジャスタの調整と打込状態の確認 .....	19
10. 施工上の注意(仕上りを美しくするために) .....	21
11. 部品交換 .....	22
12. ネジづまりの直し方 .....	23
13. 性能を維持するために .....	24
14. カラ打ち時の確認事項 .....	25
15. 保証、アフターサービス、補修用性能部品について .....	25
全国販売拠点、サービス拠点一覧	

# 1 各部の名称



VS-71吊子用



本機は、波形トタンおよびそれに類した材料を軽量形鋼（1.6～2.3mm厚）に止めることを目的としたネジ打機です。指定以外の用途、使用方法は重大な事故につながる恐れがあります。この取扱説明書の記載事項を厳守してください。作業関係者以外、特に子供は作業場所に近づけないでください。また、本機に触らせないでください。

### 作業前

- ①使用の際は、作業者およびまわりの人も必ず保護メガネを着用する。

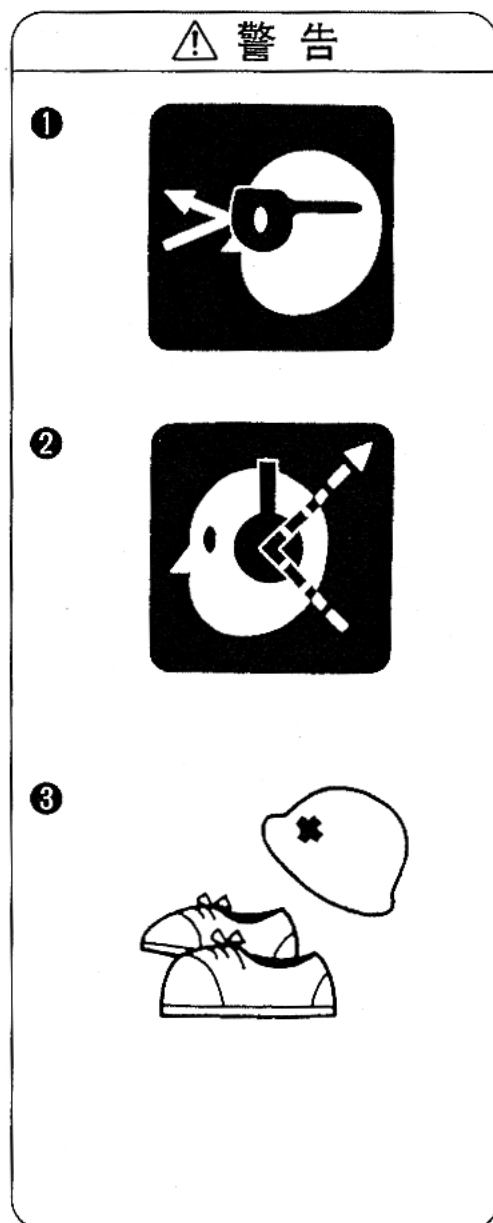
ネジ打作業をする時、打ち損じのネジがはね返り、眼に入ると失明する恐れがあります。作業する本人はもとよりまわりの人も必ず保護メガネを着用してください。

- ②防音保護具を着用する。

ネジ打作業をする時、排気音や排気エアから耳を守るため、作業環境に応じて防音保護具（耳栓等）を着用してください。

- ③作業環境に応じた防具を着用する。

作業環境に応じてヘルメット、安全靴等の防具を着用してください。



## ④エアホース接続前に必ず点検する。

エアホースを接続する前に下記の点検を必ず行ってください。

1. ネジの締め付けが緩んでいたり、抜けていないか。
2. 各部部品が外れていたり、傷んでいないか。
3. コンタクトアームがスムーズに動くか。

不完全なまま使うと、事故や破損の原因となります。異常のある場合は、お買い求めの販売店又はマックスサービス㈱へ点検・修理に出してください。

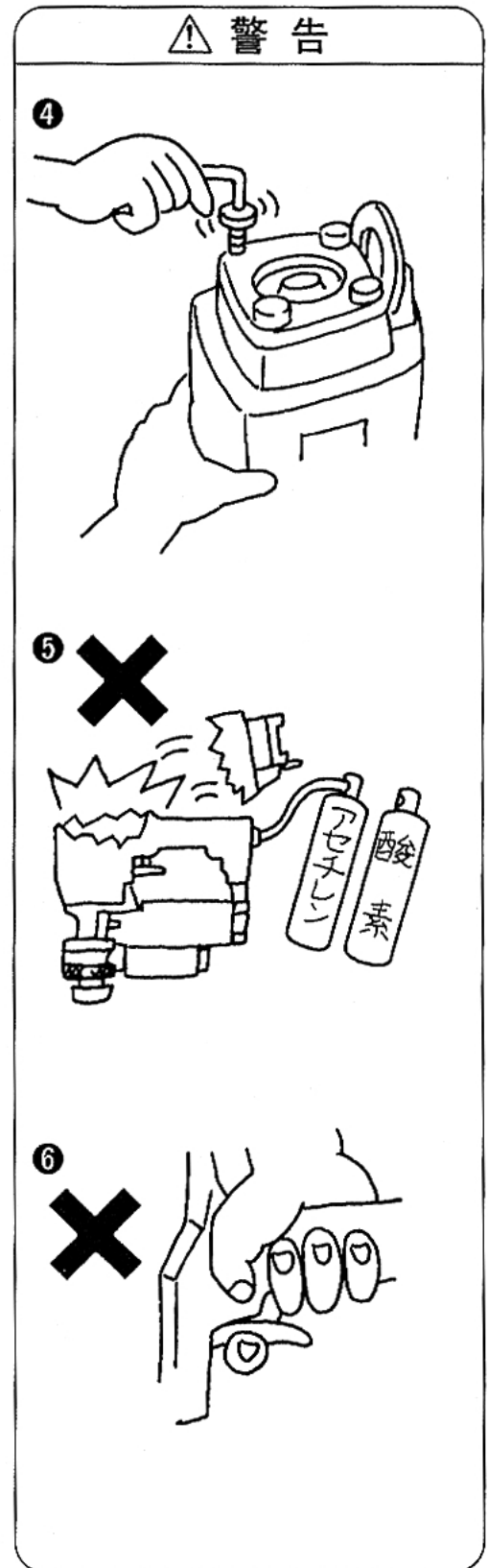
## ⑤エアコンプレッサ以外の動力源は絶対に使用しない。

本機はエアコンプレッサによる圧縮空気を動力源とする工具です。圧縮空気以外の高圧ガス（例：酸素、アセチレン等）を使うと異常燃焼をおこし爆発の危険を伴いますので、エアコンプレッサ以外は絶対に使用しないでください。

## ⑥エアホース接続の時には必ず厳守する。

エアホースを接続するときは誤って作動させないように下記のことを必ず守ってください。

1. トリガに指をかけない。
2. コンタクトアームに触れない。
3. コンタクトアームを押し上げた状態にしない。
4. 射出口を人体に向けない。



### ⑦エアホース接続時には必ず確認する。

使用前にはネジを装填しないでエアホースを本機に接続し下記の確認を必ず行ってください。

1. エアホースを接続しただけで作動音がしないか。
2. エアもれや異常音がしないか。

エアホースを接続しただけで作動したり、エアもれや異常音がする場合は故障しています。そのまま使うと事故の原因となりますので、絶対に使用しないでください。異常のある場合はお買い求めの販売店又はマックスサービス㈱に点検・修理に出してください。

### ⑧安全装置が完全に作動するか使用前に必ず点検する。正常に作動しない場合は使用しない。

使用前には必ず安全装置が完全に作動するか、確認してください。ネジを装填しないでエアホースを接続して確認してください。(10ページ参照)

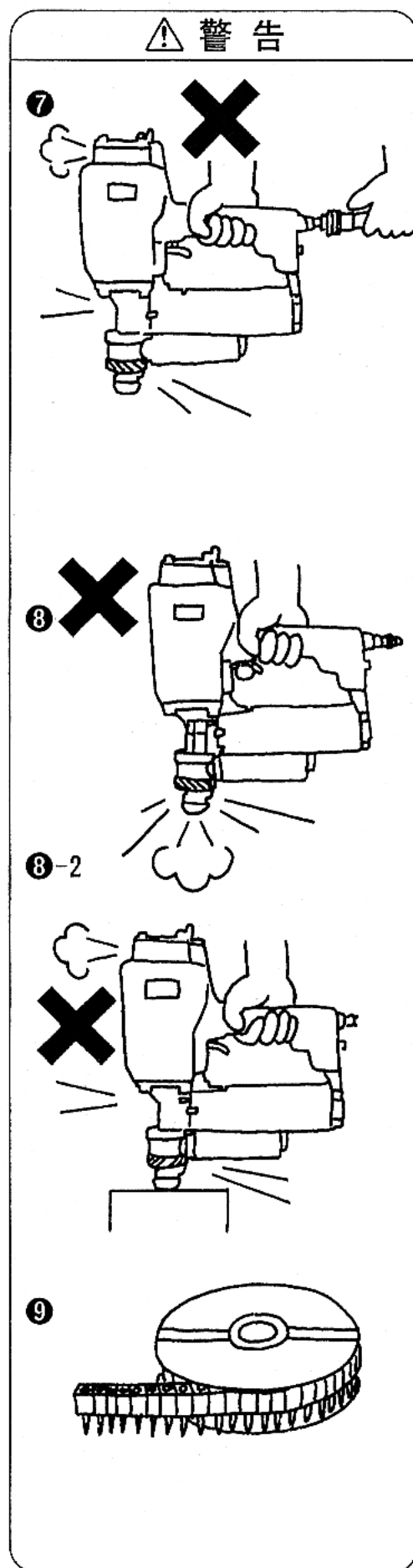
※下記の場合には安全装置が故障していますから本機を絶対に使用しないでください。

1. トリガを引いただけで、作動音がする。
2. コンタクトアームを対象物に当てただけで、作動音がする。

異常のある場合はお買い求めの販売店又はマックスサービス㈱に点検・修理に出してください。

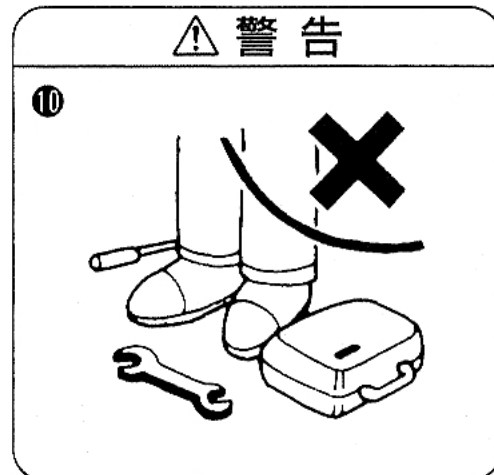
### ⑨指定ネジを必ず使用する。

指定されたネジと異なるものを使用すると本機の故障や事故の原因となりますので、必ず指定のネジをご使用ください。(12ページ参照)



## ⑩ 作業場所を常に整理する。

作業場所が乱雑だとつまづくなどして思わぬ事故の原因となります。作業場所は常に整理整頓をして安定した姿勢で作業を行ってください。



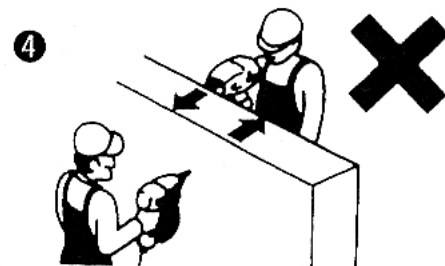
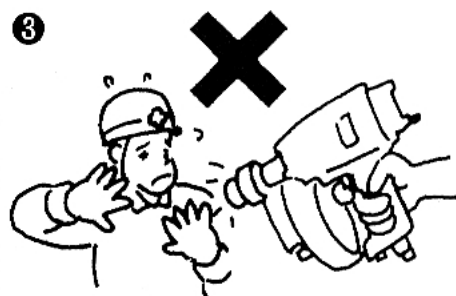
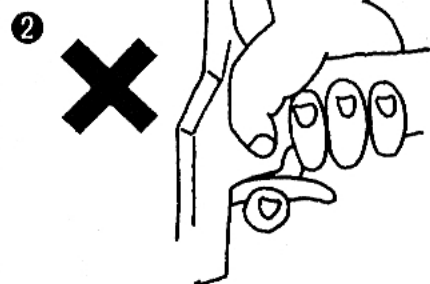
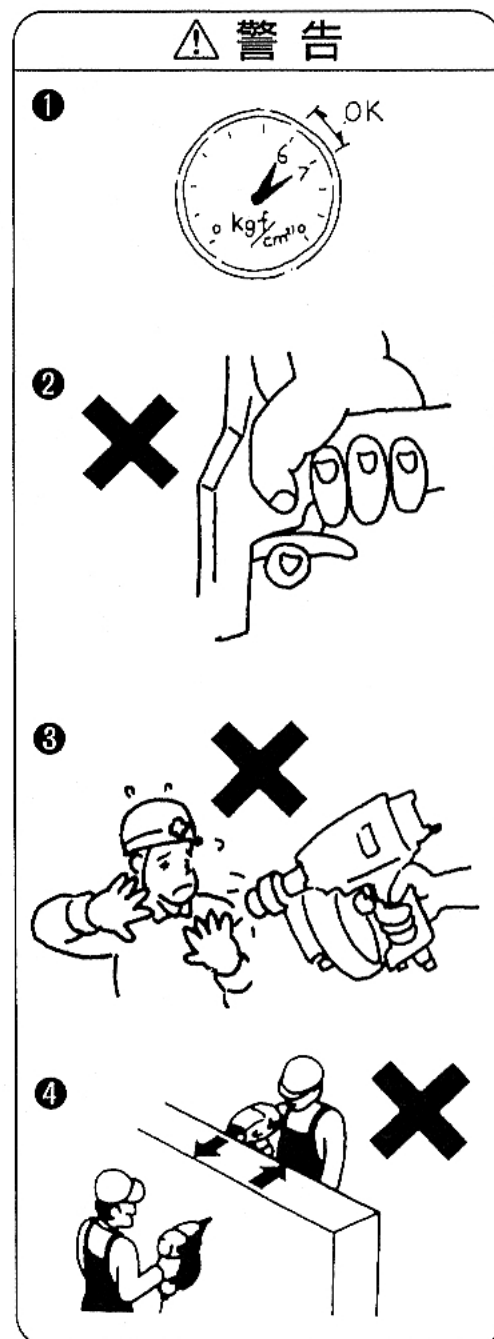
## 作業中

### ① 使用空気圧を必ず守る。

本機の使用空気圧範囲は6~7kgf/cm<sup>2</sup> (0.59~0.69 MPa)です。対象物によりその範囲内で調整し使用してください。7kgf/cm<sup>2</sup> (0.69MPa)を超えた圧力で使用すると本機の寿命を早めたり損傷によって危険を生じる恐れがあります。

### ② 打つ時以外は絶対にトリガに指をかけない。

トリガに指をかけたまま本機を取り回し、誤って発射した場合は思いがけない事故につながります。ネジを打つ時以外は絶対にトリガに指をかけないでください。



### ③ 射出口を絶対に人体に向けない。

射出口を人に向け、誤って発射した場合には思いがけない事故につながります。また、射出口付近に手足等を近づけての作業は危険ですからさけてください。同時に打ち損じたネジが人に当たらないよう作業中はまわりの人に注意をはらってください。

### ④ 向い合わせのネジ打ちは絶対にしない。

向い合ってネジ打作業をすると、打ち損じたネジが前の作業者にあたり、思わぬ怪我をすることがありますので、向い合わせのネジ打ちは絶対にしないでください。

**⑤ 射出口を確実に対象物に当てる。**

射出口を確実に対象物に当てないと、一度打ったネジなどに当たった場合ネジがはねたり、それたりして大変危険です。また、本機が強く反発することもあり危険ですから、射出口を確実に対象物に当ててください。

**⑥ 揮発性可燃物のそばで絶対に使用しない。**


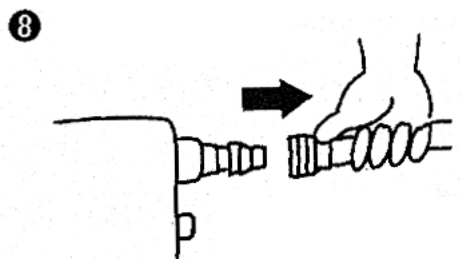
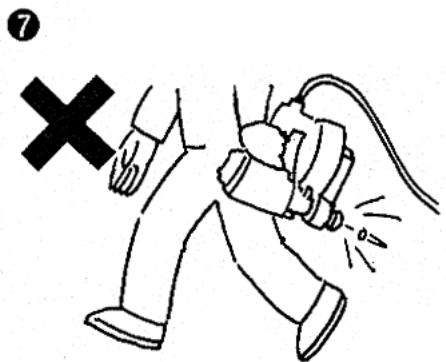
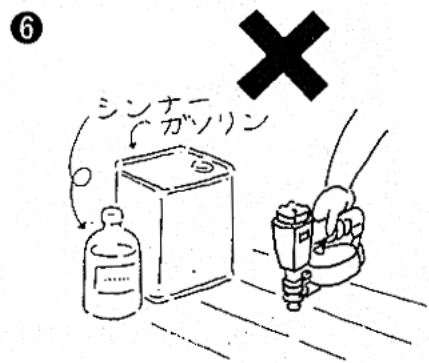
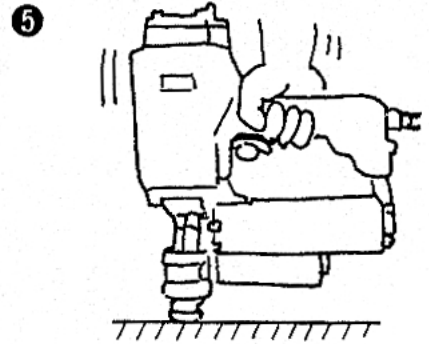
本機やエアコンプレッサを揮発性可燃物（例：シンナー、ガソリン等）のそばで使うとネジ打込時の火花による引火や、空気といっしょに吸入圧縮され、爆発の危険を伴いますので、揮発性可燃物のそばでは絶対に使用しないでください。

**⑦ 移動する際は、必ずエアホースをはずす。**

エアホースを接続した状態でトリガを引いたまま本機を持ち歩いたり、手渡し等をし、誤って発射した場合には思いがけない事故につながります。移動する際は、必ずエアホースをはずしてください。

**⑧ 作業中断時は必ずエアホースをはずす。**

作業中のネジ装填、調整及びネジづまりを直すときは誤ってネジを発射すると危険ですから、必ずエアホースをはずしてください。


**警告**




**⑨ 異常を感じたら絶対に使用しない。**

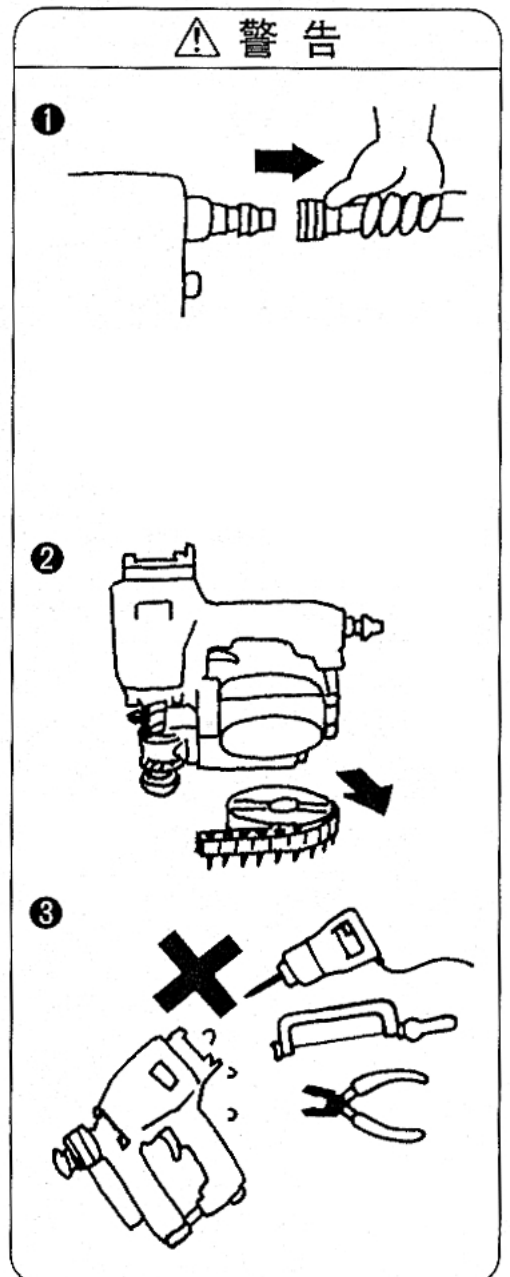
作業中に本機の調子が悪かったり、異常を感じたら、ただちに使用を中止してください。異常のある場合はお買い求めの販売店又はマックスサービス欄に点検・修理に出してください。



**作業後**

**① 作業終了時には必ずエアホースをはずす。**

作業終了時には、必ずエアホースをはずしてください。



**② 作業終了時には必ずネジを抜く。**

ネジをマガジン内に残しておくと、次に使用するときうっかり手を触れたり、誤って作動させた場合、思わぬ事故につながる可能性があります。作業終了時には必ずマガジン内のネジを抜きとってください。

**③ 本機を絶対に改造しない。**

本機を改造すると、本来の性能が発揮できないばかりでなく安全性が損なわれますので、絶対に行わないでください。

## 屋外作業について

## ①足場の安全性を十分に確認する。

足場を使っての高所作業の場合、釘打作業中に落ちることのないように充分足場の安全性を確認してください。

## ②エアホースの確保。

高所作業の場合、エアホースは作業場所の近くに必ず固定箇所を作ってください。これは不用意にホースが引っぱられたり、引つかかったりしたときの危険を防ぐためです。また、ホースのたるみやねじれのないように注意してください。

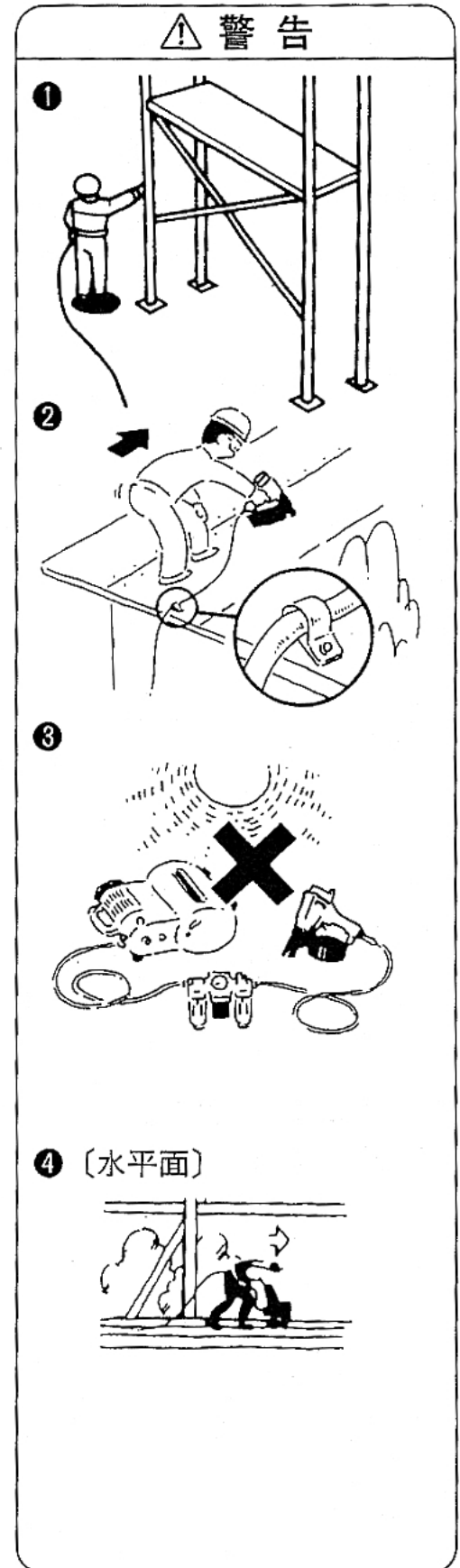
## ③直射日光をさける。

本機やエアセット、エアコンプレッサは直射日光に長時間あてたまま放置しないでください。また、エアコンプレッサはできるだけ日陰に設置して使用してください。

## 打ち方

## ④水平面のネジ打ち

前進姿勢でネジ打作業を行ってください。安全で疲労が少なく、正確で速い作業ができます。後退しながらの作業は足をとられるなど危険です。



**⑤ 垂直面のネジ打ち**

本機を手の届く最も高いところまで差し上げ、上から順に下へネジ打作業を行ってください。疲労の少ない作業ができます。

※内、外壁の同時打ちは絶対にしないでください。

**⑥ 傾斜面のネジ打ち**

下から上に向かって前進姿勢でネジ打作業を行ってください。上から下に後退すると足を踏みはずす危険があります。


**警告**
**⑤** 〔垂直面〕

**⑥** 〔傾斜面〕


## 3

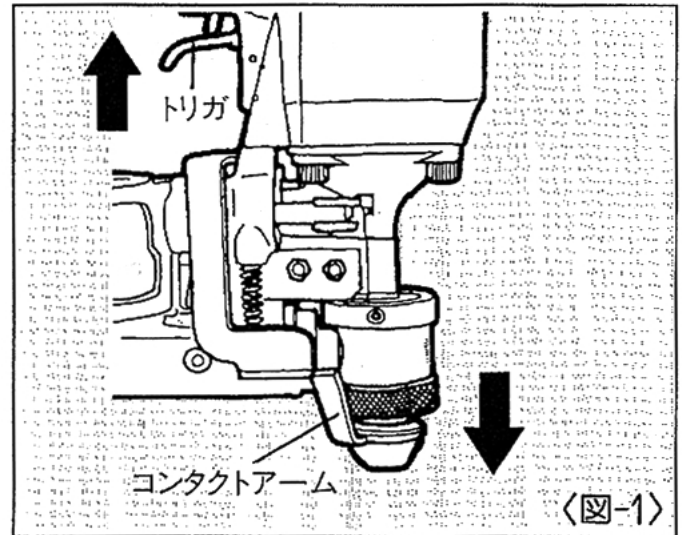
## 安全装置について

ネジ打作業の安全と仕上りの美しさを確保するため、本機には次のような安全装置がついています。

## ●メカニカル安全装置

これはコンタクトアームとトリガが同時に作動しないと発射しないメカニズムです。つまりトリガを引いただけではネジは発射せず、また、コンタクトアームを打込対象物に当てただけでもネイルは発射しません。コンタクトアームを対象物に当てる動作とトリガを引くという動作が重なってはじめてネジは発射されます。

〈図-1〉



〈図-1〉

### ⚠ 警告

●安全装置が完全に作動するか使用前に必ず点検する。正常に作動しない場合は使用しない。

使用前には必ず安全装置が完全に作動するか、確認してください。ネジを装填しないでエアホースを接続して確認してください。

※下記の場合には安全装置が故障していますから本機を絶対に使用しないでください。

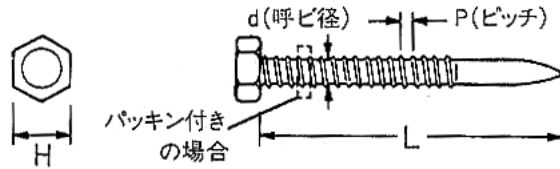
- 1.トリガを引いただけで、作動音がする。
- 2.コンタクトアームを打込対象物に当てただけで、作動音がする。

異常のある場合はお買い求めの販売店又はマックスサービス㈱に点検・修理に出してください。

# 4 仕様及び付属品

名 称	マックスネジ打機	
製品記号	VS-71	VS-71吊子用
回転機構	エアモータ方式	
ネジ送り機構	フィードピストンバネ送り方式	
マガジン形式	マガジンキャップ開閉式	
寸 法	(H) 360× (W) 150× (L) 335mm	
重 量	3.8kg	
ネジ装填数	100本 (一卷)	
使用空気圧範囲	6~7kg/cm <sup>2</sup> (0.59~0.69MPa)	
使用ホース	内径8.5mm以上・長さ30m以内	
使用コンプレッサ	IHP以上	
使用オイル	タービン油I種ISO VG32 (JIS1号90番)	
安全装置	メカニカル方式	
付 属 品	保護メガネ、ジェットオイラ(油入)、六角棒スパナ6・5・3、ポンチ06、トルクパイプ、ドライバビット(ソケット7)、アタッチメントA	保護メガネ、ジェットオイラ(油入)、六角棒スパナ6・5・3、ポンチ06、トルクパイプ、ドライバビット(ソケット7)、アタッチメントW-2

<使用ネジ、消耗品>

標準 打込 ネジ	 <p style="text-align: right;">(単位：mm)</p>						
	製品記号	L	d	P	H	取付可能 中間材厚さ	備 考
	CBH4×22全ネジ	22	4.0	1.41	7	直張り用	全ネジタイプ
	CBH4×26	26	//	//	//	//	
	CBH4×35	35	//	//	//	9mm	
	CBH4×38	38	//	//	//	12mm	
CBH4×38全ネジ	//	//	//	//	16mm	全ネジタイプ	
特 注 打込 ネジ	 <p style="text-align: right;">(単位：mm)</p>						
	製品記号	L	d	P	H	取付可能 中間材厚さ	備 考
	CBH4×22-S全ネジ	22	4.0	1.41	7	直張り用	ステンレス、全ネジタイプ
	CBH4×38-S全ネジ	38	//	//	//	16mm	ステンレス、全ネジタイプ
	CBH4×26パッキン	26	//	//	//	直張り用	パッキン付き
	CBH4×38パッキン	38	//	//	//	12mm	パッキン付き
鋼 板 釘	 <p style="text-align: right;">(単位：mm)</p>						
	製品記号	L	d	P	H	取付可能 中間材厚さ	備 考
	CBF4×42全ネジ	42	4.0	1.41	7	12~16mm	皿頭タイプ
シー リング ワッシャー	 <p style="text-align: right;">(単位：mm)</p>						
	製品記号	D	備 考				
	CW4×13	13	本ワッシャー使用時は、別売品のアタッチメントW1が必要です。				
	CW4×16	16	本ワッシャー使用時は、別売品のアタッチメントW2が必要です。(VS-71吊子用には付属)				

# 5 使用方法

使用前に本機とエアコンプレッサを接続しないで使い方を覚えてください。

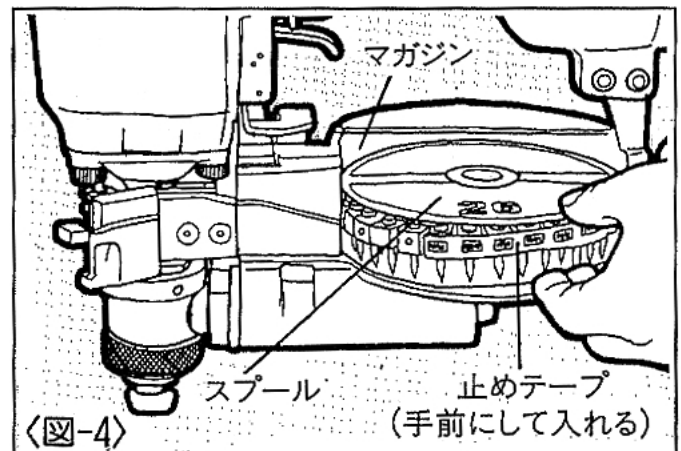
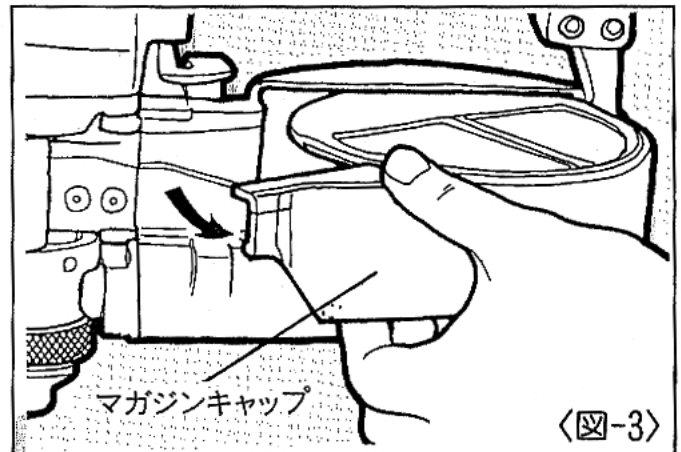
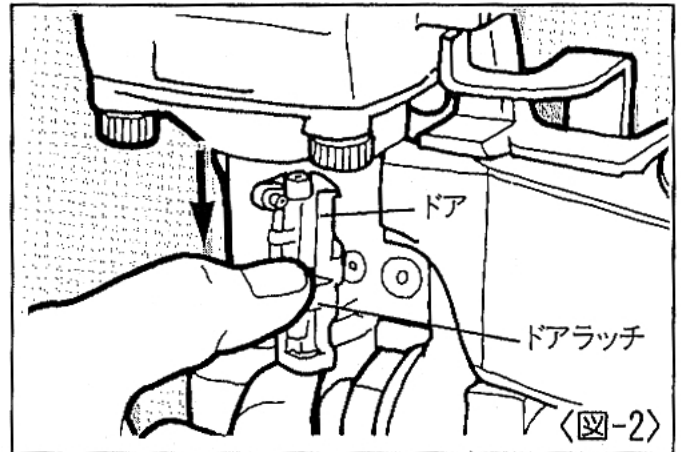
## 【ネジの装填方法】

### ⚠ 警告

- ネジを装填するときは、必ずエアホースをはずす。

### 手順

- ①エアホースをはずします。
- ②ドアとドアラッチに指をかけてドアラッチを下へ押し、左へ開きます。〈図-2〉
- ③マガジんキャップを右へ軽く回して開きます。〈図-3〉
- ④ネジをスプールのまま、止めテープを手前にしてマガジン内に入れます。〈図-4〉
- ⑤止めテープを取ってネジを引き出します。



- ⑥次にネジの連結帯を連結帯ガイドの中に入れ、止まるところまで押し込みます。

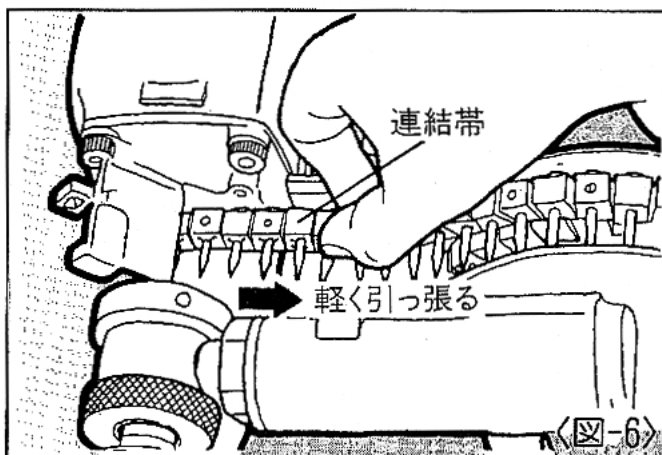
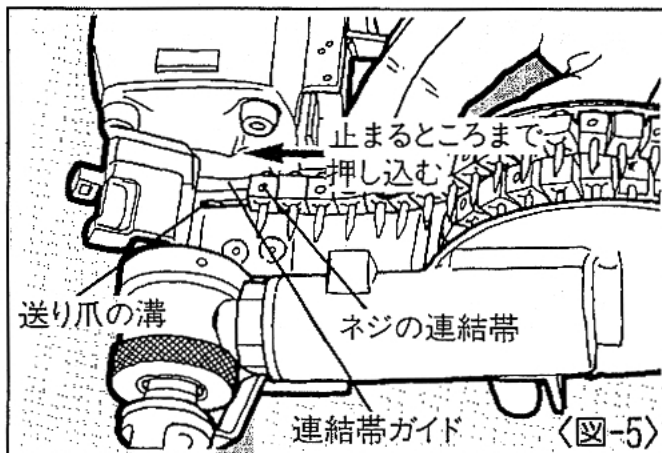
〈図-5〉

### ⚠ 注意

- 押し込んだネジの連結帯を軽く引っ張り、ネジが送り爪に保持されている（引っ張ってもはずれない）ことを確認してください。 〈図-6〉  
不適正な位置で使用するとネイルの送り不良が発生します。

- ⑦マガジンキャップを左へ回して閉じます。

- ⑧ドアとドアラッチをつまんで右へ回し、ドアを閉じます。





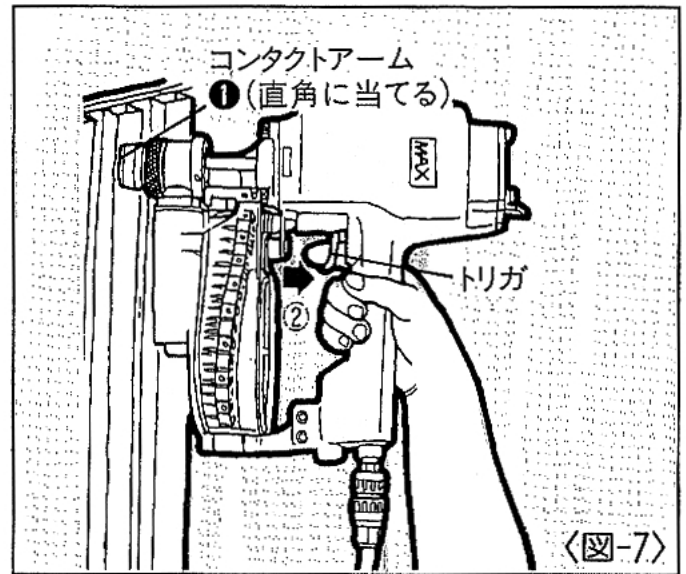
## 【打ち方】

### 手順

打ち込む箇所にコンタクトアームの先端を上材と直角に当ててから、トリガを引いたまま保持します。 <図-7>

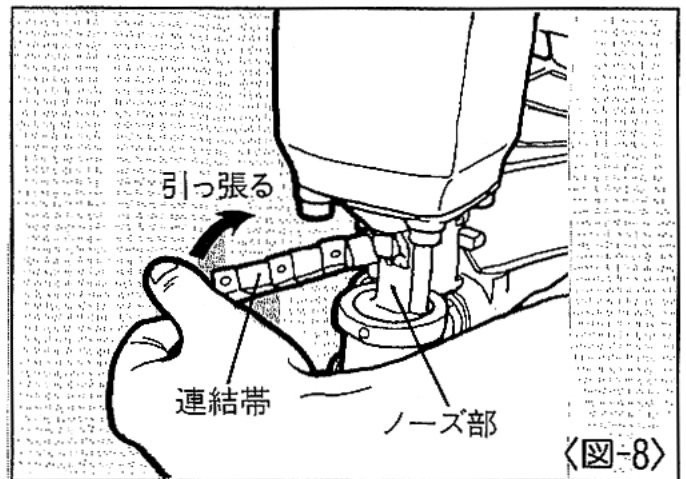
### ⚠ 注意

- 本機は、最初にネジを打ち込み、次にネジ込み作業をします。ネジ込みが終るまでは、絶対にトリガから指をはなさないでください。
- 2度打ち（1本のネジがネジ込みを終わっていないのに、もう1本のネジを打ち込んでしまう）をすると、ソケットの中にネジがつまったり、また、本機の故障の原因ともなりますので、絶対にしないでください。



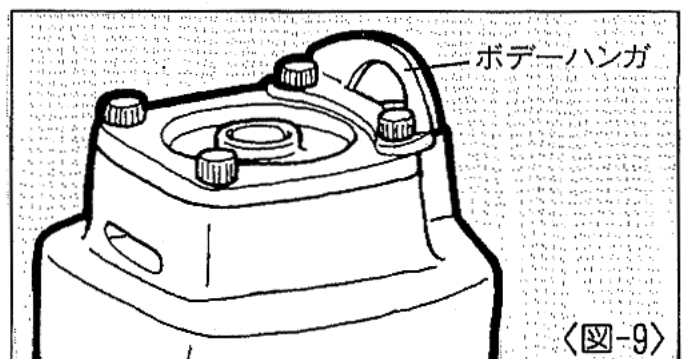
## 【プラスチック連結帯の切り方】

ネジ打作業中、ノーズ部よりネジのプラスチック連結帯がでてきますので→の方向に引きちぎってください。 <図-8>



## 【ポデーハンガの使い方】

本機上部のポデーハンガは、紐やかけ金具を付けて引っ掛け用にしたたり、作業を容易にするため吊り下げるときに利用できます。 <図-9>



# 6 用途とネイル選定基準

本機の用途には次のようなものがあります。ネジ打込対象物に合わせて適したネジを選定してご使用ください。(使用ネジは12ページ参照)

## ●主な用途

- 鉄骨建築の角波・リブ波のトタン張り
- 金属サイディング張り
- 水切り・石膏ボード・コンパネの仮止め
- 合板の鉄骨下地止め
- 吊子止め (VS-71吊子用)

## ⚠ 警告

- 施工については施工基準書にもとづいた施工を行う。
- 施工基準の指定のない場合は参考施工例を参考にする。
- 必ず射出口先端を部材に直角に押し当てる。

## ●ネジ(又は釘)長さの選定基準

用途 中間材 使用ネジ (又は釘)	外壁 (鋼板厚1.6mm~2.3mm)				吊子止め (VS-71吊子用)	鉄骨下地 (合板等)	仮止め	備考
	直張り	9mm	12mm	16mm	16mm	12~16mm	石膏ボード他	
CBH4×22全ネジ	○							
CBH4×26	○							
CBH4×35		○						
CBH4×38			○					
CBH4×38全ネジ				○	○			
CBH4×22-S全ネジ	○							
CBH4×38-S全ネジ			○	○				
CBH4×26パッキン	○							
CBH4×38パッキン			○					
CBF4×42全ネジ						○		
CBA32W1							○	別売品(特注)丸ソケットとジュラコンスリーブが必要です。

## 7

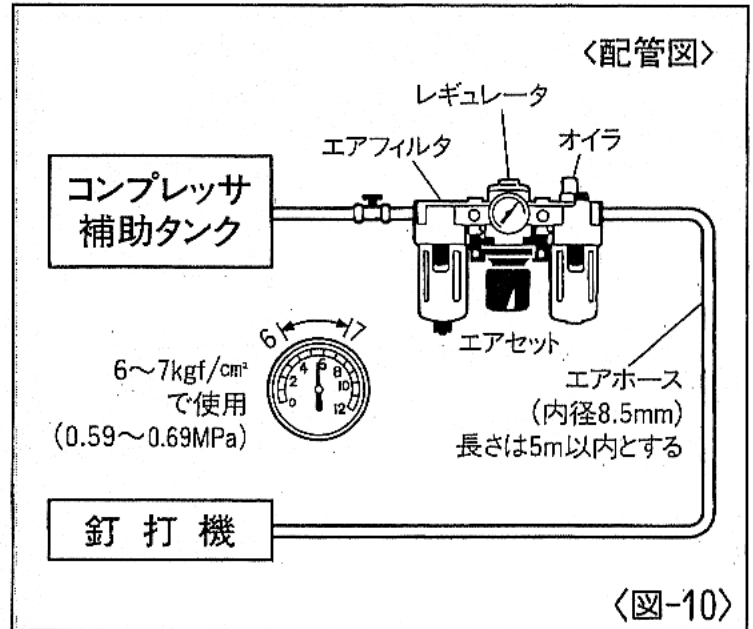
## 配管についての注意

## ⚠ 警告

●エアコンプレッサ以外の動力源は絶対に使用しない。

- ①動力源は必ずエアコンプレッサをお使いください。高圧ガス(例：酸素、アセチレン等)は絶対に使わないでください。
- ②エアセットはできるだけ本機1台に1セット取付けるようにしてください。
- ③エアホースは内径8.5mm以上、長さ30m以内で使用してください。エアセット使用時は、エアセットからネジ打機までのエアホースを内径8.5mm以上、長さ5m以内で使用してください。

〈図-10〉



### ⚠ 警告

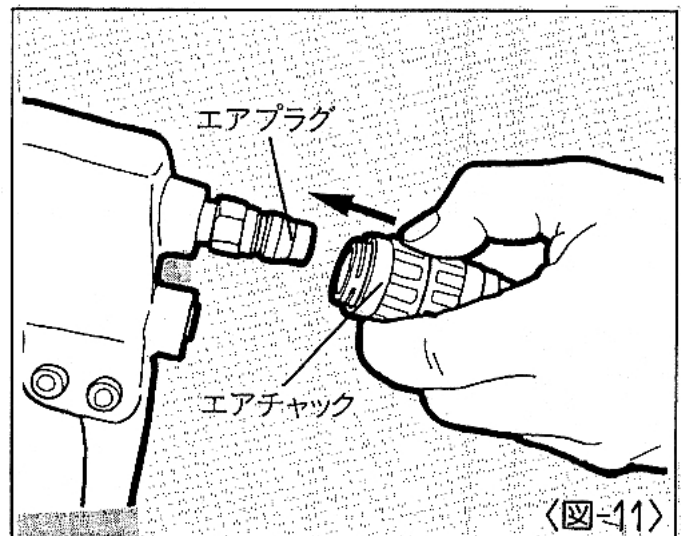
●エアホース接続の時は必ず厳守する。

エアホースを接続する時は誤って作動させないように下記のことを必ず守ってください。

- 1.トリガに指をかけない。
- 2.コンタクトアームに触れない。
- 3.コンタクトアームを押し上げた状態にしない。
- 4.射出口を人体に向けない。

### 手順

- ①エアプラグにエアホースのエアチャックを接続します。  
 <図-11>



### ⚠ 警告

- 作業中断時は必ずトリガから指をはなし、エアホースをはずす。

# 9

## アジャスタの調整とネジ込状態の確認

本機にはネジ込具合を調整できるアジャスタが装備されています。出荷時には最大にネジ込まれるようにセットしてありますので、必要に応じてゆるめて（アジャスタの位置を下げる）調整してください。

### ⚠ 警告

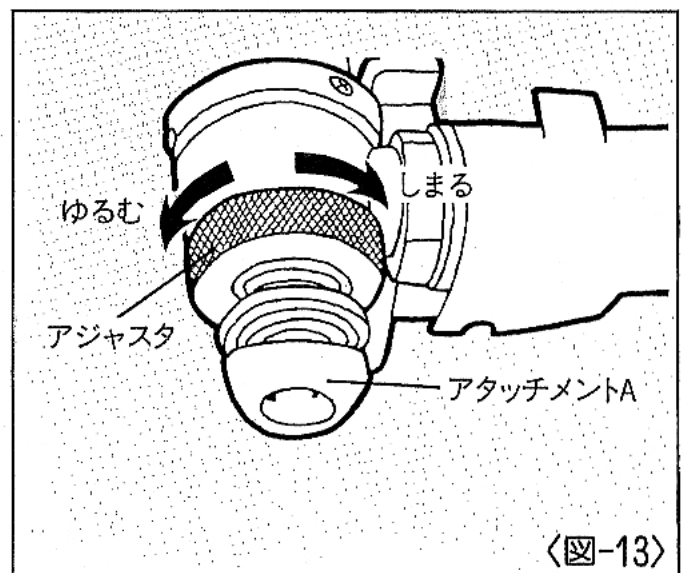
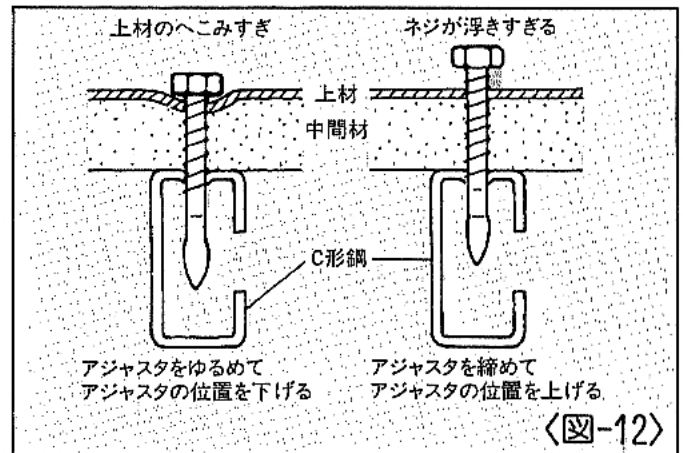
- 調整の時は必ずエアホースをはずす。

### 手順

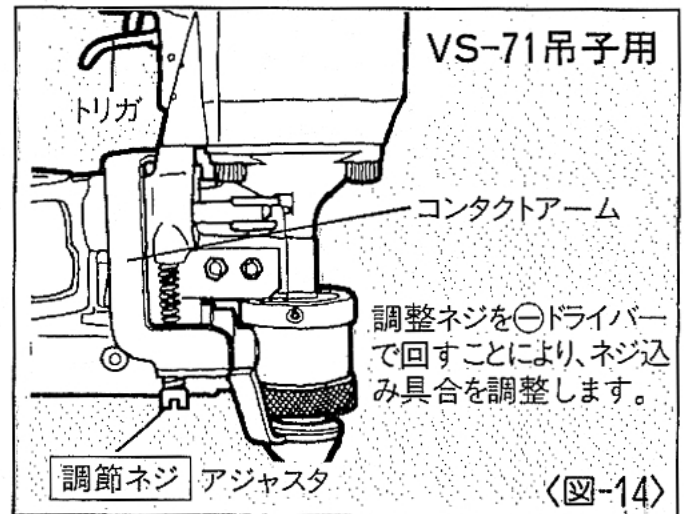
- ①エアホースをはずします。
- ②ネジを装填します。
- ③エアコンプレッサの圧力を調整します。  
※本機の使用空気圧範囲は6~7kgf/cm<sup>2</sup> (0.59~0.69MPa)ですが、コンプレッサのエアを効率的に使用するため、下記のように空気圧を調整してご使用ください。

C形鋼の厚さ	空気圧
1.6mm	6kgf/cm <sup>2</sup> (0.59MPa)
2.3mm	7kgf/cm <sup>2</sup> (0.69MPa)

- ④本機にエアホースを接続します。
- ⑤アジャスタの調整（ネジのネジ込調整）の前に一度テスト打ちしてください。ネジ込み具合を確認します。〈図-12〉
- ⑥エアホースをはずします。
- ⑦ネジを取り出します。
- ⑧アジャスタを回し調整します。〈図-13〉

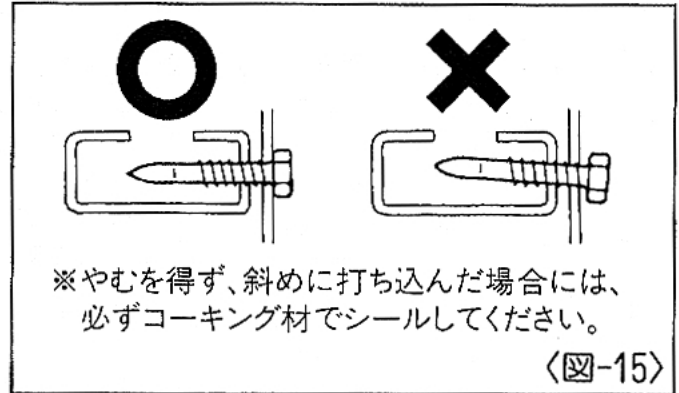


- ⑨本機にネジを装填します。 〈図-14〉
- ⑩エアホースを接続してさらにテスト打ちをして適正かどうか確認してください。
- ⑪適正であれば調整完了です。不適正であれば以上の手順をくり返してください。
- ⑫適正状態が得られない場合はエアコンプレッサの空気圧を調整してください。



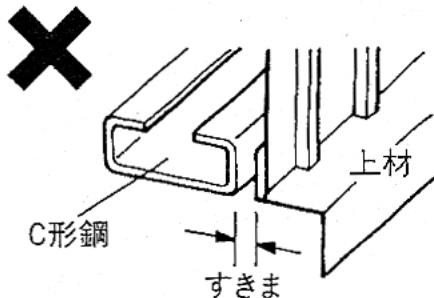
仕上りを美しくするために下記事項をお守りください。

- C形鋼の位置を確認してください。(特にカラートタンの下にフェルトを張る場合)
- 本機を対象物に直角に軽く押し当て、トリガを引いてネジ込んでください。斜めにネジ込むと、仕上りも汚く、雨漏りの原因になります。 〈図-15〉

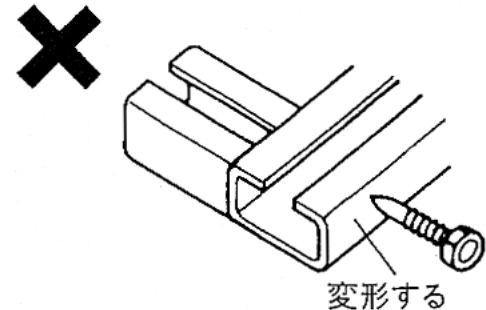


### ⚠ 注意

- 2度打ちをすると、カラートタンにキズを付けるだけでなく、本機故障の原因ともなりますので、絶対にしないでください。
- 対象部材の材質、状態、ネジ打ち位置によってはネジ込めない場合があります。

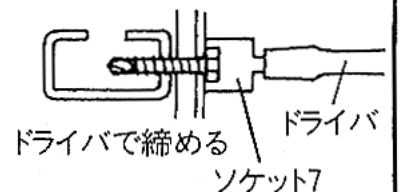
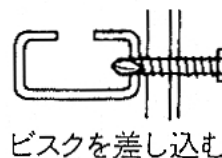
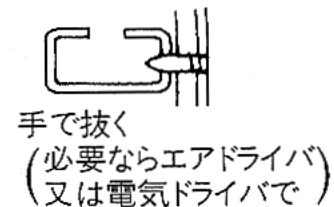
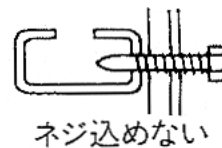


上材とC形鋼の間にすきまがある場合



C形鋼の端の場合

※ネジ込めない時、無理をして何回も打ち込みますと、仕上りが汚くなり、雨漏りの原因にもなりますのでおやめください。その場合には、頭の形状が同じである別売のマックスネジ「ビスク」(VB4×13又はVB4×25)を穴に差し込み、付属のドライバビット(ソケット7)を使い、エアドライバ又は、電気ドライバで、右図の要領でネジ込んでください。



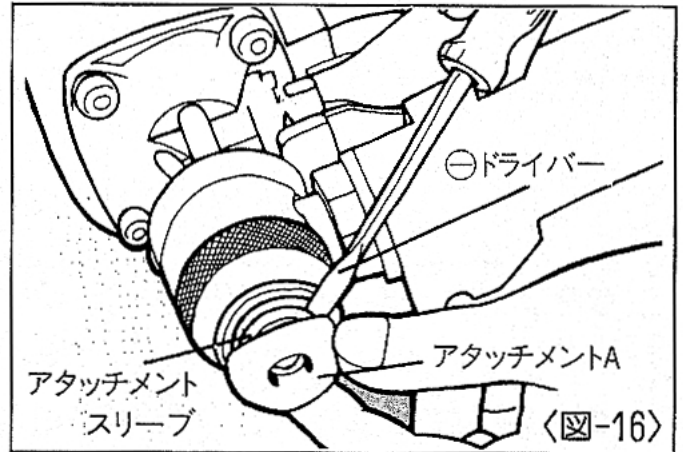
ソケット、アタッチメントAが摩耗すると、ねじ込みが甘くなり、部材を保持できなくなりますので、下記の要領で交換してください。なお、交換の目安としてのねじ込み回数は、ソケットで約5000回、アタッチメントAで約3000回です。

### ⚠ 警告

●部品交換の際は、必ずエアホースをはずす。

#### 【アタッチメントの交換】

アタッチメントAとアタッチメントスリーブのすき間に⊖ドライバーを差し込んで、アタッチメントAをはずします。〈図-16〉



#### 【ソケットの交換】

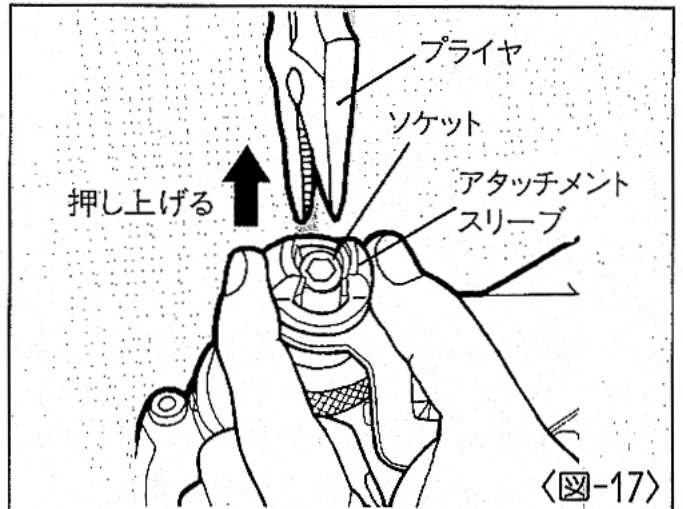
##### 手順

①アタッチメントAとアタッチメントスリーブのすき間に⊖ドライバーを差し込んで、アタッチメントAをはずします。

〈図-16〉

②アタッチメントスリーブを図のように押し上げ、ソケットをプライヤ等で引抜きます。

〈図-17〉



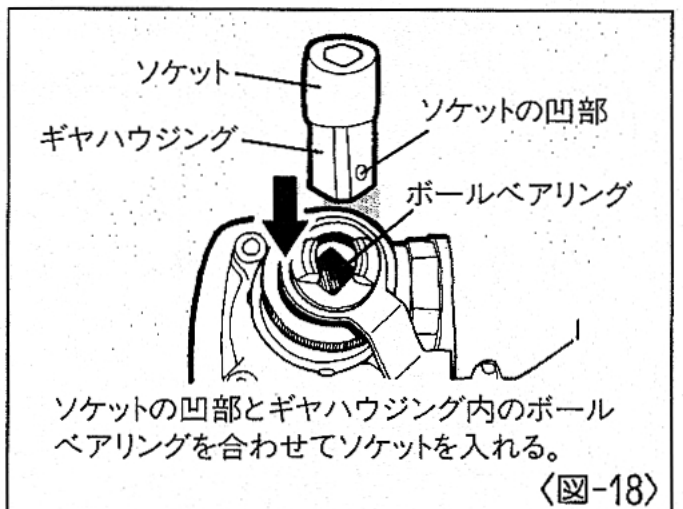
③新しいソケットをギヤハウジングの中に入れ、ハンマーの柄や木の棒でソケットを押し込みます。

(ソケットの向きが正しければスムーズに入ります。)

〈図-18〉

※1.ソケットは入れる向きが決まっていますので、図を参照しながらまちがいのないように入れてください。

※2.ソケットを押し込む際、ハンマーで絶対にたたき込まないでください。



ソケットの凹部とギヤハウジング内のボールベアリングを合わせてソケットを入れる。

〈図-18〉



# 12 ネジづまりの直し方

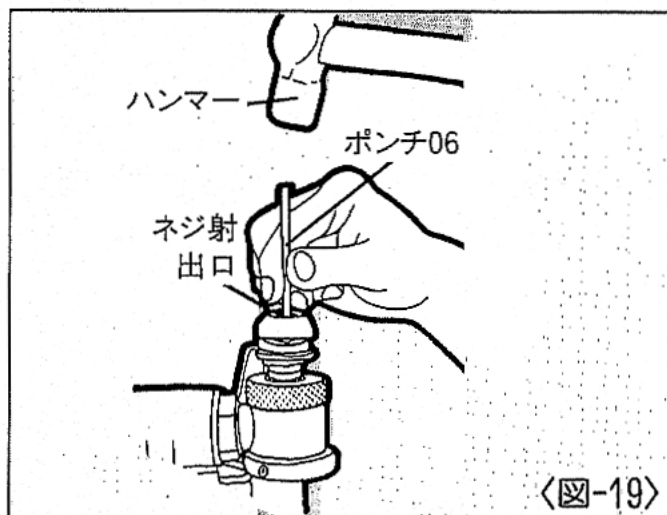
## ⚠ 警告

- ネジづまりを直す時は必ずエアホースをはずす。

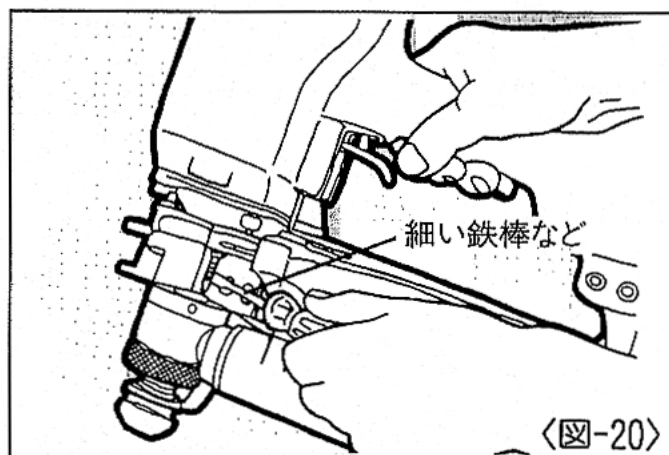
## 手順

- ①エアホースをはずします。
- ②ネジをマガジン内より抜き取ります。
- ③ドアを開き、射出口よりポンチ(付属品)を入れ、ハンマーでたたきます。

〈図-19〉



- ④ノーズ内部につまったネジを細い鉄棒や⊖ドライバーで取り除きます。〈図-20〉
- ⑤ネジを送り爪に再度確実にセットして、ドアを閉じます。



〈図-20〉

# 13 性能を維持するために

## ①本機を大切に使う

落したり、ぶつかけたり、叩いたりしますと、変形、亀裂や破損を生じる場合があります。危険ですから絶対に落したり、ぶつかけたり、叩いたりしないでください。

## ②カラ打ちをしない

ネジを装填しないでカラ打ちをくり返し行くと各部の耐久性が低下しますのでさけてください。

## ③エアセットを使用する

エアセットを使わないとエアコンプレッサ内の水分やゴミが本機内に入り、錆や摩耗が発生して作動不良の原因になります。なお、エアセットから本機までのエアホースは長すぎると圧力低下となりますので5m以内にしてください。

## ④本機の水抜きをする

作業終了時エアプラグを下に向け十分水抜きしてください。

## ⑤指定オイルを注油する

オイルはタービン油1種ISO VG32 (JIS1号90番) を必ずお使いください。使用前使用後にエアプラグの口より2~3滴注油してください。指定外のオイルを使用しますと、能力低下や故障の原因となります。

## ⑥サイレンサの清掃をする

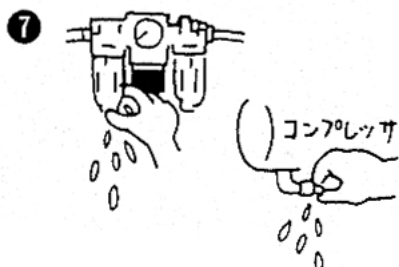
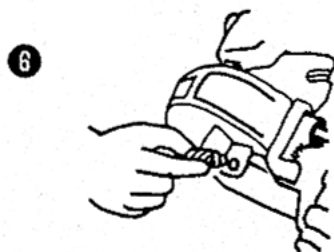
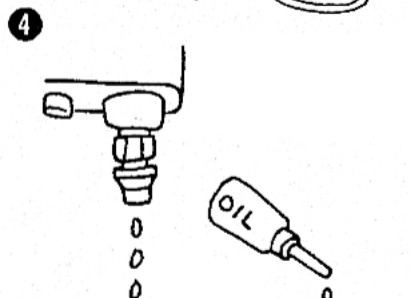
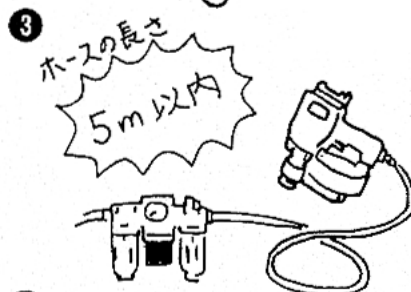
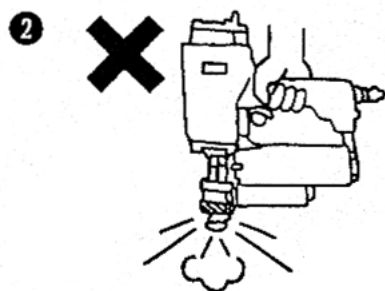
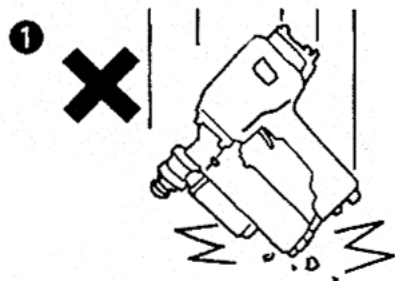
長期間使用するとサイレンサにゴミが付着し、ネジ込み力が弱くなります。サイレンサがゴミで黒くなりましたら本機より取りはずし、シンナーで洗ってください。

## ⑦エアコンプレッサのタンク、補助タンク、エアセットのエアフィルタの水抜きをする

エアコンプレッサのタンク、補助タンク、エアセットのエアフィルタに水がたまると能力低下や故障の原因となりますので定期的に水抜きをしてください。

## ⑧定期的に点検する

本機の性能を維持するために清掃、点検を定期的に行ってください。点検はお買い求めの販売店又はマックスサービス(株)にお申しつけください。



# 14 カラ打ち時の確認事項

作業中に本機は作動するがネジが実際に打ち込まれない場合には、下記の事を点検してください。

- ①ネジが送り爪にきちんとセットされているか。
- ②送り爪が作動しているかどうか。  
※作動していない場合は、エアプラグから2～3滴注油してください。
- ③ネジがマガジン内でからまっていないか。

上記①②③を確認してもカラ打ちが直らない場合には、お買い求めの販売店またはマックスサービス(株)に点検・修理に出してください。

# 15 保証、アフターサービス、補修用性能部品について

## 【保証について】

- 本機には保証書（梱包箱に添付）がついています。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保管してください。
- 本機の基本保証期間はご購入日より1年間です。  
「お客様登録カード」にて登録手続きしていただいたお客様に限り、保証期間が2年間となります。

## 【アフターサービスについて】

- 本機の調子が悪いときは、使用を中止して、お買い求めの販売店又はマックスサービス(株)にご相談ください。
- 保証期間中の修理は保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。
- 保証期間経過後の修理は、修理によって機能が維持できる場合に、ご要望により有償修理させていただきます。

## 【補修用性能部品の最低保有期間】

- 本機の補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後6年です。
- 補修用性能部品とは、本機の性能を維持するために必要な部品です。

この取扱説明書は再生紙を使用しています。



本社・営業本部	〒103-8502	中央区日本橋箱崎町6-6	TEL(03)3669-8121(代)
札幌支店	〒060-0041	札幌市中央区大通東6-12-8	TEL(011)261-7141(代)
仙台支店	〒984-0002	仙台市若林区卸町東2-1-29	TEL(022)236-4121(代)
東京支店	〒103-8502	中央区日本橋箱崎町6-6	TEL(03)3669-8118(代)
名古屋支店	〒461-0025	名古屋市東区徳川1-11-23	TEL(052)935-8531(代)
大阪支店	〒553-0004	大阪市福島区玉川1-3-18	TEL(06)6444-2031(代)
広島支店	〒733-0035	広島市西区南観音7-11-24	TEL(082)291-6331(代)
福岡支店	〒812-0006	福岡市博多区上牟田1-5-1	TEL(092)411-5416(代)
盛岡営業所	〒020-0824	盛岡市東安庭2-10-3	TEL(019)621-3541(代)
宇都宮営業所	〒321-0933	宇都宮市築瀬町2313	TEL(028)636-3012(代)
柏営業所	〒277-0871	柏市若柴297-12	TEL(04)7132-1500(代)
多摩営業所	〒190-0022	立川市錦町5-17-19	TEL(042)528-3051(代)
浜松営業所	〒433-8117	浜松市高丘東2-22-15	TEL(053)439-3300(代)
南九州営業所	〒891-0115	鹿児島市東開町3-24	TEL(099)269-5347(代)
新潟マックス(株)	〒955-0081	三条市東裏館2-14-28	TEL(0256)34-2112(代)
水戸マックス(株)	〒310-0043	水戸市松ヶ丘2-3-27	TEL(029)255-3761(代)
群馬マックス(株)	〒371-0844	前橋市古市町233-5	TEL(027)210-7755(代)
埼玉マックス(株)	〒331-0823	さいたま市北区日進町3-421	TEL(048)651-5341(代)
千葉マックス(株)	〒284-0001	四街道市大日1870-1	TEL(043)422-7400(代)
横浜マックス(株)	〒241-0822	横浜市旭区さちが丘7-6	TEL(045)364-5661(代)
長野マックス(株)	〒399-0033	松本市笹賀8155	TEL(0263)26-4377(代)
長野営業所	〒381-2247	長野市青木島1-35-1	TEL(026)285-6740(代)
静岡マックス(株)	〒422-8036	静岡市敷地1-3-26	TEL(054)237-6116(代)
金沢マックス(株)	〒921-8061	金沢市森戸2-15	TEL(076)240-1871(代)
富山営業所	〒930-0827	富山市上飯野字樋向割10-8	TEL(076)452-0182(代)
福井営業所	〒918-8237	福井市和田東2-1711	TEL(0776)27-3378(代)
京滋マックス(株)	〒612-8414	京都市伏見区竹田段ノ川原町9	TEL(075)645-5061(代)
兵庫マックス(株)	〒652-0832	神戸市兵庫区鍛冶屋町2-1-2	TEL(078)652-7370(代)
三木営業所	〒673-0404	三木市大村109-1	TEL(0794)83-2121(代)
岡山マックス(株)	〒700-0971	岡山市野田3-23-28	TEL(086)246-9516(代)
四国マックス(株)	〒761-8056	高松市上天神町761-3	TEL(087)866-5599(代)
徳島営業所	〒770-0866	徳島市末広1-4-25	TEL(088)623-0286(代)
松山営業所	〒790-0951	松山市天山2-1-35	TEL(089)913-0608(代)
マックスサービス(株)札幌	〒060-0041	札幌市中央区大通東6-12-8	TEL(011)231-6487(代)
マックスサービス(株)仙台	〒984-0002	仙台市若林区卸町東2-1-29	TEL(022)237-0778(代)
マックスサービス(株)高崎	〒370-0031	高崎市上大類町412	TEL(027)350-7820(代)
マックスサービス(株)埼玉	〒331-0823	さいたま市北区日進町3-421	TEL(048)667-6448(代)
マックスサービス(株)名古屋	〒461-0025	名古屋市東区徳川1-11-23	TEL(052)935-8210(代)
マックスサービス(株)大阪	〒553-0004	大阪市福島区玉川1-3-18	TEL(06)6446-0815(代)
マックスサービス(株)広島	〒733-0035	広島市西区南観音7-11-24	TEL(082)291-5670(代)
マックスサービス(株)福岡	〒812-0006	福岡市博多区上牟田1-5-1	TEL(092)451-6430(代)

●マックスお客様ご相談ダイヤル(無料) 0120-228-358  
月～金曜日 午前9時～午後6時

●住所、電話番号などは都合により変更になる場合があります。